

日中両言語における同じ漢字を用いた動詞の表すそれぞれの意味領域の差異に対する比較研究

—日本語動詞「飲む」と中国語動詞「飲」を中心に—

戴 政宇

1. はじめに

1.1 本稿の目的と研究手順

台湾における中国語母語話者の日本語学習者によく見られる日本語の誤用法のほとんどが母語の干渉による過剰一般化 (overgeneralization) であるため、日中両言語における同じ漢字を用いた動詞が表すそれぞれの意味領域の差異に対する知識が乏しいことが原因であろう。そこで、本稿は、そのような動詞の内、日本語動詞「飲む」と中国語動詞「飲」の表す多義性を分析した上で、「飲む」と「飲」が表すそれぞれの意味領域を比較研究して、両者の間に存在する差異を明らかにすることを試みたいと思います。

研究の手順としては、第一に、「飲む」及び「飲」が実際にどのように用いられているのかを、文例を呈示しながら考察し、認知意味論に基づいて両者が表すそれぞれの語の概念を形成する中心的な意味特徴であるプロトタイプを抽出する。¹第二に、プロトタイプに基づいて、「飲む」と「飲」の基本義を確定した上で、両者がどのように意味拡張してそれぞれの語の表す多義性を示すか、を分析・考察する。第三に、「飲む」と「飲」が表す多義性を比較分析して、それらの意味の内、相互に重なり合うものと、ズレが存在している独自の意味を示すものとを分類して、両者の意味領域の差異を明らかにする。

尚、本研究の対象として用いる中国語は、現代の中国語圏において共通語として認められている「北京語」であり、台湾では「国語」に該当する。²

2. 日本語動詞「飲む」と中国語動詞「飲」の表す意味領域の差異に対する意味論的比較分析

2.1 日本語動詞「飲む」の多義性に対する意味分析

2.1.1 「飲む」の表す基本義 (多義的別義[1])

「飲む」の概念の解釈として、日本語辞書全般に互って第一項目に立てられているのは、「水を飲む」の意味を表すような「液体を喉に流しこむ」という意味である。³下記を見られたい。

- (1) 澄んだ水を飲むことになったので、上機嫌である。(森鷗外『寒山拾得』)
→由於飲(喝)了乾淨的水，心情變的極好。

において、「飲む」の概念は、<生理的な渴きを満たしたいという欲求を満足させるために><自ら対象の液体に近づき、手、或いは、ほかの道具を使って><液体・水を口から喉へ流しこんで腹の中に入れる行為>によって形成される「飲む」である。これらの意味特徴の内<液体・水を口から喉へ流しこむ行為>の部分が最も中心的な核を成す概念を含んでいるプロトタイプである。(1)文に対応する中国語文中の「飲」の概念も同じ意味特徴によって形成されていると分析できる。

2.1.2 「飲む」の多義的別義[2]

- (2) この時、小野川はもういい年であったが、気負いの面白い男でよく飲む。(中里介山『大菩薩峠』)
→當時的小野雖已上了年紀，但仍然非常有精神且為人風趣，因此很會喝酒。

における「飲む」は「酒を飲む」の意味を表している。「酒」は液体の一種で、つまり「類」と「種」に基づくシネクドキー表現であるため、シネクドキー的意味拡張によって「飲む」が「酒を飲む」という多義的別義[2]を派生したものと認められる。

2.1.3 「飲む」の多義的別義[3]

- (3) スイカの種を飲んでしまう。(『三省堂 スーパー大辞林』)
→吞下了西瓜的種子。

における「飲む」は<ある一定の体積を占める固形物を><嚙まずに口から喉にのみ(流し)込んで腹の中に入れる>という意味特徴によって形成される概念である。「飲む」の対象物は「液体」から「固体」になったが、<嚙まずに口から喉にのみ(流し)込むこと>という部分に焦点を合わせると、この別義[2]は基本義を支えるプロトタイプから部分転用⁴して意味拡張し、派生したことになる。もう一つの例を考察する。

- (4) A は到頭我慢が出来なくなって、もう一度薬を飲むことにした。(渡辺温『花嫁の訂正一夫婦哲学一』)
→A 最後還是忍耐不下去，決定再吃一次藥。

「薬を飲む」は頻繁に用いられる名詞と動詞の組み合わせである。⁵ 薬は主にカプセル・丸薬などの固形物を指すが、「薬を飲む」に対応する中国語の動詞は「吃(日本語訳では「食べる」に相当する)」である。つまり、中国語の用法では、日本語の「(薬を) 食べる」という意味の「吃」という動詞に切り替えて用いなければならない。言い換えれば、中国語母語話者の場合には、「薬を食べる」と誤用するわけである。以上の分析と考察に基づくと、<固形物を嚙まずに口から喉に流し込んで腹に入れる行為>に対しては、中国語は「吞」または「吃」を用いて表現する。「飲む」に対応するには、中国語の動詞は「飲」「吞」「吃」の三種類を使い分ける必要がある。それは「飲」が意味的に細分化されており、それに依拠して、「飲む」と「飲」の表す意味概念の間には差異があることが分かる。

2.1.4 「飲む」の多義的別義[4]

- (5) 男は長椅子に掛けて、其処にある煙草を飲むとして居た。(与謝野晶子『午後』)
中国語訳→男人坐在椅子上,一副正要準備吸烟的樣子。(抽)。

における「飲む」は<気体を口の中に吸い込んで><その気体を口から喉の中に吹き入れて充満させる行為>という意味特徴によって形成される「吸う」の意味を指す。(5)文中の「飲む」の動作は、基本義の動作と異なるが、解剖的な視点から考察すると、<気体を嚙まずに口から喉に吹き(流し)込んで腹の中に入れる>などの類似性を認めることができる。「飲む」の別義[4]は対象の違いにより人体に取り入れる方法に相違点が生じる点において、固形物が対象語である場合と意味的な変化のプロセスが同じであり、基本義を支えるプロトタイプから部分的な転用したものと判断できよう。また、中国語では、対象語が気体である場合には、「飲」を用いず、「吸」と「抽」などの二つの動詞によって表現することが分かる。

2.1.5 「飲む」の多義的別義[5]

- (6) アトランチス大陸が、津波に飲まれてしまう。⁶(海野十三『洪水大陸を呑む』)
→雅特蘭提斯大陸被海嘯給吞噬。

において、(6)文中の「飲む」が表す概念は、<海流などの大きな流れなどの液体に><自分または他者のみ込まれる動作・状態>といった二つの主要な意味特徴から組み立てられており、受身の形で使われることが多い⁷。この多義的別義の動作主に相当する名詞は人間などの意志或いは生命を持つ存在ではなく、津波や海流といった液体が生物を含む具象物

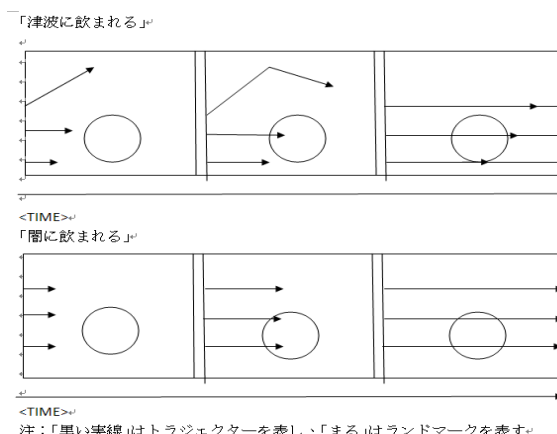
を「のみ込む」場合に用いられる。意思の無い液体がまるで人間のように口を開けて、口腔の中で何の作用も加えず直接「動作主(津波)の内側に呑み込んで包み込む」という一連の動作に準じて表現できるのは、基本義と「形態(外見)」上の類似性によると思われる。多義的別義[5]はメタファー的意味拡張に基づき意味概念を派生させて、「擬人法」⁸の表現を形成している。

2.1.6 「飲む」の多義的別義[6]

- (7) 闇に飲まれる。(『三省堂 スーパー大辞林』)
→被黑暗吞噬。

別義[6]の表す概念は、<自分または他者が意志のない空気・気体により包み込まれる状態・さま>という意味特徴によって形成される「包まれる」という概念である。この場合、受身の形が常用されるのは明らかに多義的別義[5]から受け継いだ意味特徴と思われるが、「呑み込む・包み込む」動作をする動作主の性質的な違いが両者を弁別する。前項の(6)文においては、「動作主(津波)はまるで人間が口を開けたかのように波を口のように大きく広げて、動作主以外の具象物を自分の内側に呑み込み取り込んだ」後で、口を閉ざしたように再び平穏な状態に戻る。(7)文中の抽象的な「闇」は均質的に自分の領域を音も無く広げていく。闇はその辺りに存在する全てのモノを「飲み」尽くした後でも元の状態にも戻らず、すでに自分の支配下に納めた空間をそのままにしているのである。(6)文中の「飲まれる」と(7)文中の「飲まれる」の意味的な差異に関しては、下の連続している三枚の「イメージ・スキーマ図」を参照してもらいたい。

【図1】「イメージ・スキーマの組み合わせ」三枚の連続しているスキーマ図



2.1.7 多義的別義[7]

- (8) 五万の**観衆を飲んだ**国立競技場。(『三省堂 スーパー大辞林』)
→**容納**五萬觀眾的國立體育場。

において、別義[7]の「飲む」は施設の容量に関わる特性を表現する。ここは別義[6]と同じ、別義[5]から擬人法という表現を継承し、意志の無い施設を主語に立て、意志のある観衆を「受け入れる」ことを意味する。別義[7]はさらに別義[5]におけるスペースの概念に集中し、建物の受容力という認識を生み出すに至った。いわゆる「焦点化」⁹のプロセスに基づいて別義[5]より意味転移したことが分かる。

2.1.8 「飲む」の多義的別義[8]

- (9) あいつは初めから**相手を飲んで**かかる。(『三省堂 スーパー大辞林』)
→從一開始他就**用氣勢壓倒對方** (嚇唬)。

における別義[8]の概念は、「見くびる」、「圧倒する」という意味である¹⁰。文例(9)中の「飲む」の表す概念は、<相手を負かすなどの目的により><高圧な態度で実際なにか形のある攻撃に出る前に><相手を怖がらせる行為>といった三つの意味特徴によって形成される「見くびる」である。別義[6]と照らし合わせると、<対象物が存在する空間は見えない物質、つまり一種の「空気」によって覆いかぶさる>という意味特徴が共通することが見出せる。スペースを占めることにより、対象に心理的に働きかける多義的別義[8]は一層抽象化された表現と考えられよう。

2.1.9 「飲む」の多義的別義[9]

- (11) この場合、**涙を飲んで**ストライキは思い止る方が諸君の為だ。(永崎貢『組合旗を折る』)
→在這樣的情況下大家還是**飲泣**取消罷工的好。
(含涙)

における「飲む」が表す概念は、「ある感情が表面化するのを無理にこらえて諦める行為」である。「悲しさ」ゆえに「涙」が流れるという因果関係が成立するため、「涙」を「飲む」ことにより悲しさという感情を表すことから判断すると、別義[9]はメトニミーに基づいて基本義から拡張された意味ということが分かる。類似した概念を表す表現に「恨みを飲む」がある。

2.1.10 「飲む」の多義的別義[10]

- (12) 人々は**息を飲んで**眼を見あわせた。(岡本綺堂『父の怪談』)
→人們**摒息**相對 (忍住憋住呼吸)

における別義[10]の表す概念は、<出すべき呼吸を何かの原因によって飲み込んだように><喉元で無理に押し止どめる行為>といった二つの意味特徴によって形成される「呼吸を喉元で無理に押し止どめる」概念である。このような動きに導く原因を探ると、<外在または内在的な事柄により><動作主が精神的・肉体的に緊張した状態に陥って発生する行為>という感情的な変化に起因する点に辿り付ける。別義[9]と同じ「気持の推移と肉体的反応の間で因果関係が認められる」ため、多義的別義[10]は別義[9]からメタファー的に拡張したものと判断する。この別義[9]と類似する他の表現としては「固唾を飲む」がある。

2.1.11 「飲む」の多義的別義[11]

- (13) 「二つの**条件を飲んで**もらえたら (出馬を) 考える」(朝日新聞 2009年7月2日 17時20分の記事)
→若能**接受**這兩個**條件**我願意考慮 (參選)。

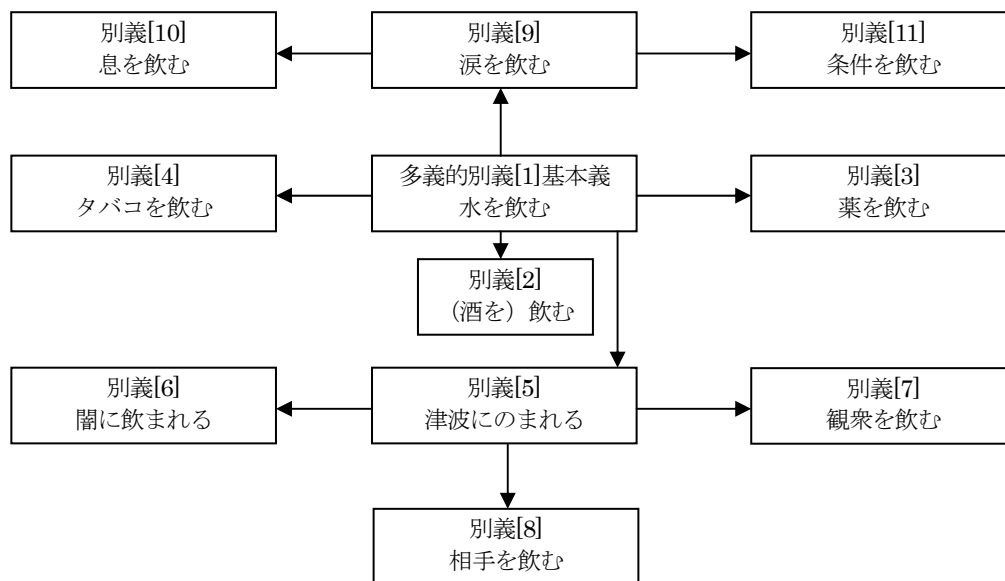
において、別義[11]の表す概念は、<相手が出した条件または要求を><腑に落ちないとはいえず受け入れる行為>という意味特徴によって形成される比喩的な意味を指す。別義(11)は、相手の求めに応じると「不満感」・「憂鬱」な気分が湧いてくる。別義[9]の場合は、具体的な涙といい、抽象的な恨みといい、それを無理やり押し殺したらマイナスな気持ちも生じてくる。両者はこの共通する意味特徴によりメタファーの意味拡張のプロセスが見出せる。

この別義[11]に対応する中国語の動詞が「接受」であり、「飲」によって対応させることが不可能である。それは、中国語の動詞である「飲」の対象語として、相手の「頼み」または「要請」が用いられている文例は未だに例を見ないのが原因の一つである。

2.1.12 日本語の動詞「飲む」の表す多義性に対するまとめ

まとめとして、この項で検討した「飲む」の基本義及び多義的別義を整理し、【図2】に図示する。

【図2】動詞【飲む】の多義構造



2.2 中国語における動詞「飲」の多義性に対する意味分析

2.2.1 中国語の動詞「飲」の表す基本義[1]

中国語の動詞「飲」の基本義が表す概念は、日本語の場合と大体同じと考えられる。この点について以下の文例中の「飲」の概念を分析する。

- (16) 他們飲了香檳，方才覺得人生活在玫瑰花色當中。(中央研究院現代漢語標記語料庫)
→シャンパンを飲んではじめて自分達がバラ色の人生を送っている事に気づく。

において、液体のカテゴリーに入るシャンパンを「飲む」の意味を表す中国語の動詞「飲」は、そのまま日本語の「飲む」によって意味的に対応できることが分かる。この用法によって両言語の動詞の基本義が表す意味領域はほぼ等しいと断定することが出来る。

2.2.2 「飲」の多義的別義[2]

- (17) 他們去喝酒前都會用手沾兩三滴酒洒在地上，代表先孝敬祖先，請祖先同飲之意。(中央研究所 現代漢語標記語料庫)
→彼らは酒を飲む前にまず酒を二、三滴地上に撒くが、それはご先祖様に敬意を表して、一緒に飲んでいただくことを意味する。

において、中国語の「飲」の別義[2]は日本語の「飲む」の別義[2]に相当し、大体の意味特徴は基本義から継承し、対象語の部分だけは「酒」に絞り込まれ

たという理由で対象語も必要ない。この点において日本語の別義[2]もびったりと当てはまり、同じ概念を表すことが分かる。

2.2.3 「飲」の多義的別義[3]

- (19) 上季財報 大摩、富國銀行報喜 波音飲泣 (2009年10月22日 「工商時報」)
→前年度の年間純利益に関する財務報告によると、大摩、富國両銀行は(利益があったという朗報を手にしたが、ボーイング社は(損失が出たというので) 悔し涙を飲んだ。
- (20) 享一時之樂，飲終身之恨。(中央研究院現代漢語標記語料庫)
→一時的な快樂を貪るんがため、一生恨みを飲む羽目となった。

において、以上の二つの文例を見ると、「飲む」の多義的別義[10]と直結することが見出せる。「飲恨」と「恨みを飲む」、「飲泣」と「涙を飲む」といった二組みは前項における意味分析ですでに明らかにしたように、相互の意味関連性が強く、同じメトニミーという換喩関係により基本義から意味的移転が発生したと判断出来る。

2.2.4 「飲」の多義的別義[4]

- (21) 一所中學的 18 歲中學生槍殺 8 人後，飲彈自盡。(中國時報 2009.03.12)
→ある中学校の 18 歳の中学生が八人を銃殺した後、銃を自らの口中に入れて(弾を)撃ち自害した。

における「飲」の表す概念は、＜自殺するという目的で＞＜銃口を自分の体の一部に向けて＞＜銃身にある引き金を引くことにより弾を体に飲み込ませた結果自殺する行為＞といった意味特徴によって形成されていることが分かる。基本義の「飲」は対象を実際に口から喉へと液体を流し込んで体の中に入れる行為を指すのに対し、別義[4]は、動作主が自害する（或いは、自殺する）ために、主体的に銃を自分に向けて撃つ行為を指す¹¹。この動作が実際に実現されれば、「結果として、動作主は必然的に死ぬ」という事実こそ別義[4]の真意であると見なせよう。意味拡張のパターンという観点から考えれば、「動作主は主体的に銃を自らの口中にまたは体の一部に向けて撃つ」、「その結果、動作主は必然的に死ぬ」という「因果関係による」メトニミーの意味拡張によって、「飲」の概念が派生していることが分かる。

2.2.5 「飲」の多義的別義[5]

- (22) 由縣長楊秋興親自擔任正獻官，舉行啟扉、迎神、上香、獻帛、獻爵、獻花、**飲福**、受胙及送神等傳統祭孔儀式。(2009年9月29日付け「中國時報」)
→楊秋興與知事が自ら神官を勤めて、「啟扉」、「迎神」、「上香」、「獻帛」、「獻爵」、「獻花」、「**飲福**」、「受胙」、「送神」などの「孔子祭り」における伝統的な儀式を行った。

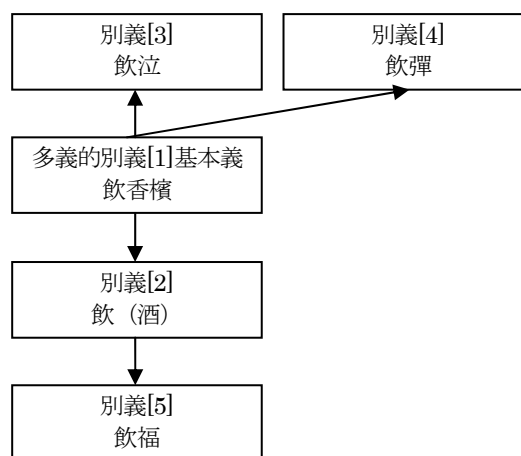
「教育部重編國語辭典修訂本」の解釈によると、中国語の「飲福」とは、＜神様のご加護をいただけるように＞＜祭りの後にお供えの酒を飲む行為＞を指すと説明している。「飲」という動詞に集中して考察すれば、＜幸福な運命を手に入れるために飲んだり＞＜または身にふりかけたりする行為＞だという。そのため、基本義の概念を形成する＜口から喉に液体を流し込んで体内に入れる行為＞という意味特徴から、メタファー的な意味拡張の結果、「飲」の新しい別義が派生したと見られる。結果、新たに派生した「**飲福**」の「飲」の概念は、限りある人生を一つの入れ物（容器）に見立てて、「幸福」という抽象的な概念を「酒」という「液体」によってメタファー化し、入れ物（人生を指す）の中に注いでその酒（幸福を指す）を飲むことによって人体（容器）に液体（幸福）を＜口から喉へと流し込んで体の中に入れる行為＞をすることとなる。この二つ元々違っていた領域に属する語義は、「容器のメトニミー」のイメージ・スキーマの写像作用により結びられている「メトニミー表現」と成っていると理解できるのである。

2.2.6 中国語における動詞「飲」の多義性に対するまとめ

以上の分析に基づいて明らかにしたことを、以下

の【図3】に整理してまとめとする。

【図3】動詞【飲】の多義構造



中国語の動詞「飲」は構成的に日本語と似通っていて、しかし支配する意味領域の範囲に差異が認められる。

日本語の多義関係と照らし合わせると、中国語の「飲」は以下の特性に集約できる。

1. 動詞「飲」の主語に無意志の物質が立たない。
2. 気体は「飲」の対象語としては使用できない。
3. 「飲」による抽象的な概念を表現する度合いは日本語より低く、「涙を飲む」「恨みを飲む」のみが抽象概念的な意味領域に拡張しているのが見出される。¹²

3. 結論

結論として、日本語の動詞「飲む」と中国語の動詞「飲」の表すそれぞれの意味領域には差異が存在することを指摘する。そして、その差異は、日本語の「飲む」の支配する意味領域の方が中国語の「飲」の支配する意味領域よりも広いこと、また、「飲」の表す概念は「飲む」の表す概念よりも、より細分化されていること、これらの二点を本稿における意味分析と比較研究の結果、明らかにした。

4. 今後の課題

今回の研究に関しては、紙幅の制限のため、多義的別義の分析は凡そ現代的な用例に絞られ、使用頻率がより低い別義が漏れる可能性がある。それについては、また稿を改めて掘り下げることとする。そのほか、できれば、日本語と中国語における同じ漢字を用いた動詞の組み合わせの表すそれぞれの意味領域の差異に関して、より多くの組み合わせが表す意味領域の差異に対する意味分析を比較研究する必要があることを今後の課題として提起しておきたい。

注

1. ジョージ・レイコフ著、『認知意味論—言語から見た人間の心—』、1987年、池上嘉彦・河上誓作他訳、紀伊国屋書店、p.752—p.754。
2. Christine Lamarre 「助詞への道—漢語の“了”、“得”、“倒”の諸機能をめぐって」、大堀寿夫編『認知言語学Ⅱ：カテゴリー化』、2002年、東京大学出版会、p.186。
3. 文例を用いて分析する場合、まず該当する語を含む文を呈示し、下に中国語の翻訳を付記する。基本的に「飲む」と「飲」を翻訳の形でなるべく併記してその語の概念を対照分析するが、もし中国語に直訳できない場合には、より適切な中国語の語・言葉を使って直訳する。そして、後ろの括弧に交替可能な語彙を添える。
4. 国広哲弥 (1982) 「部分転用：語義特徴の一部のみが用いられ、他は抑圧される場合である。』『意味論の方法』大修館書店、p.114。
5. 手元にある辞書を調べると、「飲む」の意味説明に「薬を飲む」はよく文例として取り出される。
6. 2.1.0.で述べた原則に則り、原文「アトランチス大陸が、津波に飲まれてしまう。」に「飲」を当てた。
7. 三省堂 『スーパー大辞林』より
8. 吉村公宏 (2004: 100) は意志のないものを、まるで意志をもった人間の行為のように喩えて言うことで、抽象的な感情を分かりやすく理解しようとするのは「擬人法」であると説いている。
9. 国広哲弥 (2006) 『日本語の多義動詞』大修館書店 (P14)
10. 『広辞苑』 第五版。
11. 教育部重編國語辭典修訂本「飲弾」：身上中彈。如「飲弾身亡」。
12. 比喩的な使い方の数が多いと、「条件」など概念的用語も動詞の対象として成り立つ日本語と比べると、中国語の「飲」は抽象度がそれほど高くないと判断できよう。

参考文献 (五十音順)

大堀寿夫編 (2002) 『認知言語学Ⅱ：カテゴリー化』東京大学出版会
 国広哲弥 (1982) 『意味論の方法』大修館書店 国広哲弥 (2006) 『日本語の多義動詞』大修館書店
 謝豊地正枝 (2003) 「シネクドキシの分類法に対する認知意味論的考察」『台大日本語文研究 5』台湾大學日本語文學系 P84-112
 謝豊地正枝 (2004) 「動詞『はしる』の多義構造に対する分析」『台大日本語文研究 7』台湾大學日本語文學系 P111-148
 謝豊地正枝 (2005) 「動詞『騙す』及び『騙す』を巡る類義語群に対する位相論的意味分析」『台大日本語文研究 8』台湾大學日本語文學系 P59-91

謝豊地正枝 (2006) 「動詞『打つ』及び中国語の動詞『打』の表す意味領域の差異に関する比較研究」名古屋語彙研究会
 謝豊地正枝 (2006) 「動詞『切る』の示す多義性に対する意味論的分析と考察」『認知言語学国際シンポジウム論文集 2』国家科学委員会・台湾大學日本語文學系
 謝豊地正枝 (2006) 「動詞『切る』の示す多義性に対する意味論的分析と考察」『認知言語学国際シンポジウム論文集 2』台湾国家科学委員会・台湾大學日本語文學系出版
 謝豊地正枝 (2007) 「『フレーム』の概念と機能に対する認知論的分析—動詞「塗る」「運ぶ」「置く」「沸かす」の作るフレームの機能に対する分析を中心に—」『台大日本語文研究 11』台湾大學日本語文學系
 谷口一美 (2003) 『認知意味論の新展開—メタファーとトニミー』研究社
 谷口一美 (2006) 『学びのエクササイズ 認知言語学』ひつじ書房
 趙順文「動詞 (2009) 『限る』とその派生語との核心義による語義展開図—基本文型と文法化を中心に」『台湾日本語文学報 26』台湾日本語文学会
 初山洋介 (2002) 『認知意味論のしくみ』研究社 吉村公宏 (2004) 『はじめての認知言語学』研究社
 林慧君 (2009) 「字音形態素『～風』の接尾辞的用法—日本語と中国語の対照を通して—」2009 年台大日本語文創新國際學術研討會

翻訳文献：

F・ウンゲラー/H・J・シュミット著 池上嘉彦訳 (1998) 『認知言語学入門』大修館書店
 ジョージ・レイコフ著 池上嘉彦・河上誓作他訳 (1987) 『認知意味論—言語から見た人間の心—』、紀伊国屋書店
 ジョン・R・テイラー著 辻 幸夫ら訳 (2008) 『認知言語学のための14章』紀伊国屋書店

用例出典：

中央研究院現代漢語標記語料庫 (Academia Sinica Balanced Corpus of Modern Chinese)
 <<http://dbo.sinica.edu.tw/SinicaCorpus/>>
 中時電子報< <http://news.chinatimes.com/>>
 青空文庫< <http://www.aozora.gr.jp/>>

辞書：

『広辞苑第5版 CD-ROM 版』CD-ROM 版
 『学研 パーソナル現代国語辞典』CD-ROM 版
 『三省堂 スーパー大辞林』CD-ROM 版
 『新明解国語辞典』第五版 CD-ROM 版
 『日本語辞典』CD-ROM 版
 『明鏡国語辞典』CD-ROM 版
 『ハイブリッド新辞林』CD-ROM 版